



安方中だより

令和3年5月31日 第2号

大田区立安方中学校

「礼に始まり礼に終わる」

校長 佐藤 彰

令和3年4月12日、男子プロゴルフの海外メジャー大会「マスターズ・トーナメント」で松山英樹選手が初優勝を果たし、日本中が大きな喜びに包まれました。

日本の各メディアは、松山選手が優勝を決めた瞬間の映像を何度も放送していましたが、もうひとつ、松山選手のキャディを務めていた早藤さんのとった行動が注目を集めました。それは、最終18番ホールで手にしていた黄色いピン（旗）をカップに戻したあと、自分の帽子を静かに取り、コースに向かって一礼をするという行為でした。アメリカのスポーツ専門局が、この時の動画を投稿したところ、合計250万回以上も再生されるなど、大反響を呼びました。

「なんて素晴らしい瞬間なのだ」、「さすが、日本人」と称賛するコメントが多く寄せられました。

このニュースが日本で報道されると、日本人も同じように心を打たれ、「海外の方にこんなに評価されて嬉しい」、「同じ日本人として誇りに思う」などの感想が投稿されました。

日本では、剣道などで「礼に始まり礼に終わる」と言われますし、野球やサッカーの試合でも深々と礼をする行為をよく見るので、決して珍しいことではありません。ですが、日本の感謝の心や礼節、相手への敬意といった美徳が、一人のキャディさんの行動を通して世界中の人々に伝わったことは、日本人として嬉しいことだと思います。

私は、中学校でバスケットボールを始め、教員になってからもクラブチームでプレーを続けていました。やはり、コートに一礼をすることやまわりの人たちへの感謝の心、対戦相手への敬意やフェアプレーの精神を繰り返し叩き込まれました。

武道などのスポーツで礼儀が必要とされる理由のひとつとして、相手への敬意を表すことによって自分をコントロールできるという側面があります。競技はケンカではないので、冷静に心や技をコントロールして自分や相手と向き合わなければならないのです。

練習や試合において、道場やコートに入る時に礼をするのは、「道場（コート）を使わせていただきます」という感謝と、練習をしてくれる指導者や先輩、自分を向上させてくれる対戦相手に対する敬意を表すからです。終わったら、「ありがとうございました」とあいさつをして感謝の心で締めくくります。この感謝の気持ちと相手への敬意の心が、自分の精神を高め技術の向上につながるのだと思います。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大のため、部活動の大会やコンクールは軒並み中止になりました。今の高校一年生は、さぞかし悔しい思いをしたことと思います。現在は、規模を縮小して活動が行われていますが、練習や試合ができるのは決して当たり前なことではありません。多くの先生方が献身的に指導をしてくださり、たくさんの運営委員の方々が大会を支えてくださっていることが改めてよくわかりました。保護者の皆さんも、練習や試合に出かける君たちのことを、祈るような気持ちで送り出しているのだと思います。

これから、各部活動の最後の大会やコンクールが行われます。勝つこともあれば負けることもあると思いますが、安方中学校の生徒には、最後はまわりの方々への深い感謝の気持ちをもって活動を終了してほしいと願っています。

令和3年度運動会

5月22日（土）に運動会が行われました。雨天の日が続き、当日も朝方まで雨が降っていて心配しましたが、先生方や実行委員の生徒が早朝からグラウンド整備をしてくれたおかげで、無事に実施することができました。

緊急事態宣言下の運動会ということで、競技は午前中のみとし、保護者の入場にも制限を設けさせていただきました。生徒たちは、元気に一生懸命競技に取り組み、終了後は爽やかな達成感を感じていたようです。

- 【第1位】 第1学年-2組 第2学年-2組 第3学年-2組
- 【同窓会特別賞】 3年4組
- 【クラス旗入賞】 1年2組 2年1組 3年1組
- 【ポスター入賞】 金賞-毛利秀人さん（3年1組） 銀賞-阿部琴音さん（2年2組）
- 銅賞-酒井結衣さん（3年4組） 銅賞-齋藤瑞季さん（2年2組）

